

分析結果報告書〔6〕 1 / 3

2.2 水質試料(ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA))

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	()年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1.あり 2.なし

測定回数 注1)	()
----------	-----

注1) 分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連操作を行った回数(1~5の整数)を記入する。
この測定回数分の分析結果を次の表<分析結果>に記入する。

<分析結果>

回数 注2)	分析結果 (ng/L) 注3)	
	検出下限値以上	検出下限値未満での検出下限値
1回目	P F O S P F O A	
2回目	P F O S P F O A	
3回目	P F O S P F O A	
4回目	P F O S P F O A	
5回目	P F O S P F O A	

注2) 実施要領5の希釈方法に従って共通試料2(試料2-2)を水で1000倍希釈して調製した分析用試料中の濃度 (ng/L) を記入する。

上記で記入した測定回数分の分析結果を記入する。

注3) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

(単位はng/Lである)。

分析結果(検出下限値以上)は有効数字3桁、検出下限値未満での検出下限値は有効数字1桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1. LC/MS 2. LC/MS/MS 3. その他()
------	-----------------------------------

<前処理(測定用試料液の調製)>

試料量	() mL
試料からの抽出方法	1. 固相抽出 2. その他()
試料のpH調節	1. 行う 2. 行わない 1. の場合: pH()
固相抽出 型式等 1 2	1. カートリッジ 2. ディスク 3. その他() 1. ポリスチレン系 2. ODS系 3. Oasis HLB(plus) 4. Oasis WAX 5. その他()
吸引速度	() mL/分
固相の脱水 吸引	1. 行う()分 2. 行わない
遠心分離	1. 行う()分 2. 行わない
その他の方法	()
溶出 溶媒	1. メタノール 2. アンモニア含有メタノール 3. その他()
溶出液の脱水	() mL 1. 無水硫酸ナトリウムによる脱水 2. その他の方法() 3. 行わない
クリーンアップ方法	1. 行う 2. 行わない 1. の場合: 方法()
濃縮の方法	
ロータリーエバポレーター	1. 行う 2. 行わない
KD	1. 行う 2. 行わない
窒素吹き付け	1. 行う 2. 行わない
その他の方法	方法()
定容量(測定用試料液量)	() mL

分析結果報告書〔6〕 2 / 3

< LC >

メーカー 型式	()
試料 注入量	() μL
移動相	()
グラジエント	()
カラム 型式	1. ODS 2. その他 ()
内径	() mm
長さ	() mm
カラム槽 温度	()
流速	() mL/分

< MS又はMS / MS >

メーカー 型式	()
イオン化 方法	1. ESI negative 2. その他 ()
検出 方法	1. SIM 2. MRM 3. その他 ()
キャピラリー電圧	() kV
コーン電圧 PFOS	() V
PFOA	() V
サロゲート((PFOS-13C4)	() V
サロゲート(PFOA-13C2)	() V
コリジョンエネルギー PFOS	() eV
(MS / MSの場合) PFOA	() eV
サロゲート(PFOS-13C4)	() eV
サロゲート(PFOA-13C2)	() eV
測定質量数 PFOS	()
(MSの場合) PFOA	()
サロゲート(PFOS-13C4)	()
サロゲート(PFOA-13C2)	()
測定質量数 PFOS	() ()
(MS / MSの場合) PFOA	() ()
サロゲート(PFOS-13C4)	() ()
サロゲート(PFOA-13C2)	() ()

< 標準液：PFOS >

標準原液 区分	1. 購入 2. 自作
メーカー名 (製造メーカー名)注1)	1. CIL 2. Wellington 3. Accu Standard 4. Fluorochem 5. fluka 6. その他 ()
Product No.	() 注2)
Lot No.	()
開封からの日数(概数)	()日
保存容器	1. アンプル 2. バイアル 3. その他 ()
保存場所	1. 冷蔵 2. 冷凍 3. 室温 4. その他 ()
標準液 調製してから測定までの日数	()日
PFOS 種類 1	1. 直鎖 2. 直鎖と枝かれ(側鎖)の混合物 3. 枝分かれ 直鎖の割合()% 注3)
種類 2	1. 酸 2. ナトリウム塩 3. カリウム塩 4. アンモニウム塩 5. その他 ()

注1) 製造会社名を選択する(「販売会社ではない」ことに注意する)。

注2) わかる範囲で記入する。

注3) 不明では記入しない。また、例えば「99%以上」の場合には「100」と記入してよい。

< 標準液：PFOA >

標準原液 区分	1. 購入 2. 自作
メーカー名 (製造メーカー名)注1)	1. CIL 2. Wellington 3. Accu Standard 4. Fluorochem 5. fluka 6. その他 ()
Product No.	() 注2)
Lot No.	()
開封からの日数(概数)	()日
保存容器	1. アンプル 2. バイアル 3. その他 ()
保存場所	1. 冷蔵 2. 冷凍 3. 室温 4. その他 ()
標準液 調製してから測定までの日数	()日
PFOA 種類 1	1. 直鎖 2. 直鎖と枝かれ(側鎖)の混合物 3. 枝分かれ 直鎖の割合()% 注3)
種類 2	1. 酸 2. ナトリウム塩 3. カリウム塩 4. アンモニウム塩 5. その他 ()

分析結果報告書〔6〕 3 / 3

< 検出下限 >

項目	検出下限 (ng/L) 注1)
PFOS	()
PFOA	()

注1) 試料中の濃度 (ng/L) として示す。

< 検量線の作成等：PFOS >

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
シリンダ内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	1. 使用する 2. 使用しない () () ng (LC/MS又はLC/MS/MS測定試料液への添加量)
カゲート物質 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	1. 使用する 2. 使用しない 1. PFOS-13C4 2. その他 () () ng (試料への添加量) () %
検量線	作成点数 () 作成範囲：最小 () ng/L ~ 最大 () ng/L 注1) 最高濃度の指示値 ()
試料 注2)	1回目 指示値 () 2回目 指示値 () 3回目 指示値 () 4回目 指示値 () 5回目 指示値 ()
空試験	指示値 ()

注1) LCへの注入する標準液濃度 (ng/L) を示す。

注2) 測定回数分の指示値を記入する。

< 検量線の作成等：PFOA >

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
シリンダ内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	1. 使用する 2. 使用しない () () ng (LC/MS又はLC/MS/MS測定試料液への添加量)
カゲート物質 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	1. 使用する 2. 使用しない 1. PFOA-13C2 2. その他 () () ng (試料への添加量) () %
検量線	作成点数 () 作成範囲：最小 () ng/L ~ 最大 () ng/L 注1) 最高濃度の指示値 ()
試料 注2)	1回目 指示値 () 2回目 指示値 () 3回目 指示値 () 4回目 指示値 () 5回目 指示値 ()
空試験	指示値 ()

注1) LCへの注入する標準液濃度 (ng/L) を示す。

注2) 測定回数分の指示値を記入する。

< 参考：分析用試料の調製（水で1000倍希釈して調製する方法） >

使用した容器	1. 全量フラスコ 2. 全量シリンダー 3. 分液漏斗 4. その他 ()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ()
分取した共通試料の量	() mL
定容量	() mL
分析用試料を調製してから分析操作（抽出操作）までの時間	() 分

分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--